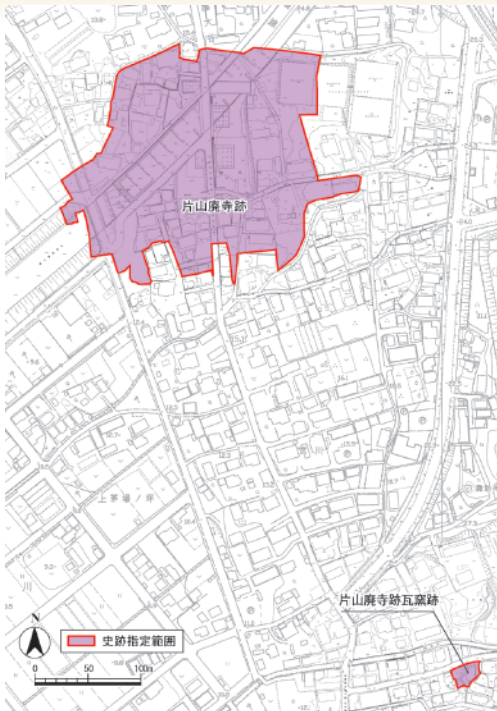


3 国分寺とは

奈良時代中頃の日本は、飢饉や干ばつ、大地震による災害、疫病が流行して混乱しており、聖武天皇は仏教の力で国を安定させるために天平13年(741)に国分寺建立の詔を発し、諸国に国分僧寺と国分尼寺を建てさせました。これを国分寺といいます。

4 発掘調査の成果と暫定整備

主に昭和23年から昭和60年までの発掘調査によって内容が明らかになった主要伽藍のうち、伽藍中軸上に並ぶ金堂、講堂、僧房の3棟について、平成8年から平成14年にかけて基壇とその周辺の暫定整備を行いました。この暫定整備の後も発掘調査が進むにつれて、区画溝や塀の柱列が発見されて伽藍域が明らかになってきたほか、平成20年には塔跡が発見されています。



史跡の指定範囲



上空から見た史跡片山麿寺跡



■交通のご案内

バス①JR静岡駅北口「静岡駅前」美和大谷線「静岡大学」下車
徒歩約2分または同路線「片山南」下車すぐ

※午前と午後で経路が変わります

②JR東静岡駅南口「東静岡駅南口」から「東静岡静大」線「静岡大学」下車徒歩約2分

専用駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。

■ご利用案内 公開時間：年中無休・常時公開 見学料：無料

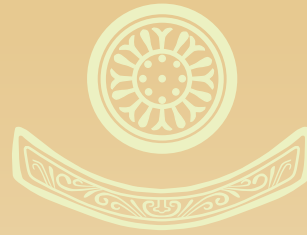
静岡市観光交流文化局文化財課 TEL:054-221-1069

片山麿寺跡は「静岡市 片山麿寺跡」で検索

https://www.city.shizuoka.lg.jp/000_002434.html



国指定史跡 かたやまはいじあと 片山麿寺跡 駿河国分寺跡



静岡市

1 片山廃寺跡とは

片山廃寺跡は、静岡市駿河区、有度山の西に位置する奈良時代の寺院跡です。昭和5年の発見以降、発掘調査によって金堂、講堂、僧房が南北に並び建つことが確認され、これらを含む範囲が昭和40年に国史跡に指定されました。また、片山廃寺の瓦を焼いた宮川瓦窯跡も発見され、昭和49年に史跡に追加指定されています。

2 国分寺説と氏寺説

片山廃寺跡の性格をめぐって、古くから駿河国分寺説と有力豪族の氏寺説がありました。国分寺説は、伽藍建物の規模が大きいこと、創建時の瓦の文様が平城京の瓦を見習っていることなどによります。豪族の氏寺説は、塔跡が見つかっていなかったこと、国府所在地（安倍郡、現在の静岡市葵区）や東海道から離れていることなどによります。ところが、平成20年の発掘調査で塔跡が確認され、僧房等の規模や瓦の型式を合わせ検証したところ「駿河国分寺」であることがほぼ確実となりました。



▲片山廃寺跡出土の瓦

片山廃寺跡から出土した瓦のうち、特に左の瓦は、平城宮跡出土のものに特徴が似ています。これは片山廃寺が官営の寺、国分寺であることの根拠の一つといえます。

①金堂

本尊を安置するお堂です。昭和5年にこの建物の礎石が発見され、寺院の存在が知られるきっかけになりました。建物の基礎に当たる基壇は、外周に自然石を積んでいます。基壇と礎石列を復元整備してあります。



▲（左）発掘調査時の金堂乱石積基壇と多量の瓦
（右）整備後の金堂

②講堂

経典の講義などが行われる建物です。発掘調査で焼土や炭化物、破損した瓦が見つかり、火災で焼失した可能性があります。基壇と礎石列を復元整備してあります。

▶（上）発掘調査時の講堂礎石列と焼土・瓦
（下）整備後の講堂（上を高速道路が通る）



③僧房

僧の共同住宅です。発掘調査時すでに一部が消滅していましたが、東西方向約70mに達する長大な建物であったと考えられます。基壇と礎石列を復元整備してあります。

▶（上）発掘調査時の僧房礎石
（下）整備後の僧房（上を高速道路が通る）



④塔

本来は釈迦の骨（舍利）を納める施設でしたが国分寺では釈迦の教え（経典）を納める高層建物でした。基壇の高まりや礎石は残っていませんが、16.5m四方前後の地盤改良跡が見つかり、その規模から七重塔であったと推定されます。現地は未整備です。



▲地盤改良跡。硬く締め固めた薄い土の層が何層も重なる。

